

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第6号 花き

発行日 平成24年 8月30日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

- ◆ 共通 高温対策、病虫害防除を徹底し、良品の出荷に努めましょう。
- ◆ りんどう 収穫後、翌年に向けた管理を徹底しましょう。
- ◆ 小ぎく 健全な親株を確保・養成しましょう。
- ◆ 施設花き 施設の風通しなどの環境管理に注意しましょう。

りんどう

1 生育概況

盆需要期の出荷は、山間地、県北部で出遅れがみられましたが、県全体としては概ね良好に出荷されました。現在、中生種の出荷が始まっています。

病虫害では高温乾燥の影響によりハダニ類、アザミウマ類の発生が増加しています。また、リンドウホソハマキの発生も続いているほか、一部の地域ではオオタバコガの被害もみられています。

今後の重要病害となる花腐菌核病は、例年より遅れた発生となる見込みです。

2 高温対策

(1) かん水

乾燥のため草丈がやや短い茎が目立っているほか、蕾の肥大や頂花の開花遅れもみられています。生育の促進と開花遅れを避けるためかん水を励行します。

うね間かん水を行う場合は、高温となる日中を避け、夜間にかん水して早朝には排水することを徹底してください。

(2) 薬剤散布

高温時の薬剤散布を避けることは基本的な事項です。

高温時は薬害の発生が多くなるほか、作業者への影響も大きくなることから、薬剤散布は日中の高温となる時間帯を避け、早朝または夕方に散布することを徹底します。

(3) 収穫・調製

気温が高い時期は、収穫後の開花が進みやすいので切り前を考慮します。

また、花卉の痛みや茎葉のしおれを防ぐため収穫後は直射日光下におかず、できるだけ早く涼しい場所に移動し、水揚げするなど適切に管理します。

3 病虫害防除の徹底

(1) ハダニ類

降雨が少なく乾燥した状態が続いたため、ハダニ類の発生が増加しています。気温の低下に伴い発生は減少しますが、9月中旬頃には越冬成虫が現れはじめ防除効果が低下する(農薬が効きにくくなる)ため、9月上旬までにハダニの密度を下げるように防除を徹底します。葉裏へ十分薬剤が付着するように薬剤散布を行います。

(2) アザミウマ類

収穫後の残花で増え、多発している圃場がみられます。蕾が着色する頃から寄生して花の内部で増殖するので、その時期から防除を徹底し、収穫後の残花の着いた茎部分を折り取ります。圃場周辺の作物や雑草の防除も併せて実施します。

(3) リンドウホソハマキ

一昨年や昨年に比べ発生は少ない傾向ですが、現在も発生が続いています。被害がみられている圃場では防除を継続します。また、定植年株への被害もみられます。採花年株とあわせて防除します。

(4) オオタバコガ

花蕾を食害します。圃場をよく観察し、発生がみられる場合は効果のある薬剤を選択し防除してください。

(5) 葉枯病

本年の発生は少なめですが、一部上位葉での発生がみられ始めています。秋季にも拡大する場合がありますので、今後収穫する品種と併せ、収穫終了した品種も防除を継続します。

(6) 褐斑病

本年の発生は少ない状況ですが、降雨が多く、葉の濡れが数日続くことで感染します。有効な薬剤を株内部に散布するほか、被害茎葉を圃場外に持ち出して処分し、拡大防止に努めてください。

(7) 花腐菌核病

菌核にできた子実体(きのこ)から孢子が飛散し、花卉に付着して感染しますが気温の低下に伴い、冷涼地から孢子の飛散が始まります。

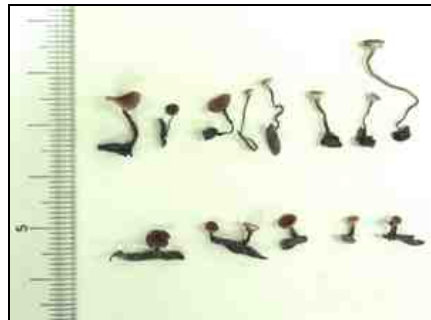
各地域での防除情報を参考に適用薬剤での防除を開始してください。



花腐菌核病被害花



株元に形成された子実体



菌核上に形成された子実体

3 収穫後の管理

(1) 早生・中生種では、生育の状況により収穫後に窒素成分で3~5kg(10aあたり)を追肥し、株養成に努めます。

(2) 収穫後の圃場では防除が手薄になり病虫害が多発する場合があります。翌年の発生源となるので、収穫後も防除を継続してください。収穫後の薬剤は葉の汚れへの配慮は不要なのでコスト低減も考慮して選定してください。

(3) 害虫や花腐菌核病の防除のため、残花のある茎部分を折り取ってください。この作業は株養成のためにも効果的です。また、定植年の株でも開花しますので、できるだけ花を摘み取ります。

小ぎく

1 生育概況

盆需要期の出荷は、若干開花が早まりましたが概ね順調に出荷されました。

病虫害では、ハダニ類、アザミウマ類の発生が増えているほか、アブラムシの発生も続いています。オオタバコガのフェロモントラップでの捕殺数が増加傾向にあります。各地域の防除情報を参考に防除を徹底してください。

2 かん水

降雨が少なく乾燥している圃場が多くなっています。過度の乾燥は、品質低下や蕾の発達が遅れる原因となりますので適宜かん水を実施します。ただし、長時間水を溜めることや高温時のかん水は避

けてください。

一方、キクの根は過湿に弱く、多湿条件下では生育障害が発生します。大雨などで長時間圃場に滞水しないよう排水対策を行ってください。

3 病虫害防除

(1) オオタバコガ

一昨年や昨年と比べ発生は少ない傾向ですが、生長部を食される被害がみられています。9月以降の防除も重要となりますので、これまでどおり各地域の防除ごよみや防除情報を参考に防除を徹底してください。

(2) 上記の害虫の他、白さび病やアブラムシ類、アザミウマ類、ハダニ類の防除を継続します。親株となるものに白さび病が感染していると翌年も発生する可能性が高くなりますので防除の徹底を図るとともに親株の選抜に留意してください。

4 母株選抜・養成

翌年採穂用の母株は、収穫前の選抜を徹底します。特に、えそ病やわい化病の感染株は見つけしだい株ごと抜き取り、圃場に残さないようにしてください。また、下葉からの枯れ上がりがみられる株は、土壌病害が原因となっているものもあります。翌年の苗にすることで感染が広がることも考えられるので、枯れ上がりのみられた株の母株への使用は避けます。

残した株は病虫害防除を継続し、茎葉が伸びた場合は適宜台刈りを行います。またマルチ栽培の場合には収穫後すぐにマルチをはがし追肥と土寄せを行います。

施設花き

1 高温対策

施設の開口部を開放して十分に換気できるようにしてください。その際、循環扇等を利用すると効果的です。また、必要に応じて遮光資材を展張し、気温や地温の低下を図ります。ただし、ストック、パンジー等育苗中のものについては徒長を避けるため過度の遮光とならないよう注意します。

2 ストック

(1) かん水

活着後は2~3日おきにたっぷりかん水します。最初に根を深く張らせることで後半にかん水を控えても萎れないようになり、品質確保につながります。過剰なかん水は立ち枯れ性病害の発生を助長するので、適量かん水を心がけます。

(2) 遮光・温度管理

活着後は速やかに遮光資材を除去し、十分な日照を確保します。ハウスは開放し、気温が上がらないような管理とし、高温による生理障害や品質低下の発生を防ぎます。

(3) コナガ防除

殺虫剤による防除をしますが、抵抗性獲得を避けるため異なる系統の薬剤をローテーションで使用します。ハウスの開口部を防虫ネット(目合いが1mm以下のもの)でふさぐことも効果的ですが、通気性が悪くなり品質低下の原因となる場合があるので、注意します。

3 トルコギキョウ

(1) 高温により一斉に開花が進みましたが、今後も高温、強日照が続く場合には、適宜、遮光して生育を抑えます。また、葉焼け等品質の低下に留意します。

(2) 今後も継続して、オオタバコガ、アザミウマ類、ヨトウムシ類、灰色カビ病の防除に努めます。

次号は9月27日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター県域普及グループは、現地農業改良普及センターを通じて先進農業者に対する支援活動を展開しています。